

前回の授業でだされた事例を類型化して、概念化した結果、以下のような正義の定義が導かれた。

作業仮説としての定義：

正義とは「悪人」ではない人々の権利を「平等」に守ることである。

以下は、各自が1つずつ勉強してきた「正義論」。

樽瀬： アリストテレス (紀元前)

人の行為について。行為の目的には階層があり、その最上は幸福。人間の徳にしたがう活動によって得られるものが幸福。徳＝知性。幸福は形がない。幸福は行為ではない。人の究極の目的は「善く」生きること。そのために、あらゆる行為の選択をする。「善く」生きるための行為は「善い」行為である。世界大戦では、戦争によって自国民の幸福を目的としたが、行為そのものは「善い」ものではない。したがって、戦争のよって幸福は得られない。だから戦争は正義ではない。

作業仮説との違い：平等を守るためには「悪人」を攻撃することが許容されることをアリストテレスは認めない。

中村： マキャベリ

君子としての正義。目的のためには手段を選ばない。目的は手段を正当化する。マキャベリは、イタリア半島の動乱期であるルネサンス期に登場した政治思想家。イタリア統一を目的として、時刻の統治と権力の維持・外国との戦争と国益の最大化のための軍事力の確保をといた。

君主として必要な資質：冷酷。鋭い金銭感覚。悪をおこなう勇氣。ライオンのどう猛さと狐の狡猾さ。敵味方を明らかにする。軽蔑されてはいけない（ぶれない、軽薄でない、臆病でない、決断できる）

非人道的な行為は、権力の維持という点では合理的。自分の利益を考え上手に立ち回る。信義を重んじているようにみせかける。自由の保障を目的とする共和主義の必要性。

作業仮説との違い：マキャベリは目的を達成することを前提とした正義。アリストテレスは行為の正義を強調する。作業仮説とは異なり、「平等」という前提がない。

遠藤：ベンサム (1800年頃)

功利主義を主張。快樂と苦痛が人間を支配する。快樂をもたらすものが善、苦痛をもたらすものが悪。最大多数の最大幸福。帰結主義（行為の正しさは、帰結の善し悪し、関係者の幸福促進で判断。悪い帰結には制裁。公平性（地位による特権はなし、救貧法、囚人の待遇改善、普通選挙）→公共の福祉、トリアージ、多数決、医療・福祉政策

作業仮説との違い：本質は帰結主義であり、「おもいやり」という概念はない。アリストテレスは、プロセスを重視する。マキャベリは目的、ベンサムは結果。

千葉：カント ルールはちゃんと守ろう。

井上：ジェームス ミル

行為の正しさは、それが快樂を生み出すかどうか。ベンサムとの違って、ミルは一般的な正義（かっこいいやつ）を前提としている。満足した愚者より不満足なソクラテスでいたい。快樂には精神的な側面も重要。一般的に正義とは、安全という功利に寄与するから人々の関心をあつめる。正義は完全な拘束力をもった義務である。権利保持者は、義務の履行を主張できる。拘束力をもった義務によって、個人の権利を尊重し、一般的な福祉を向上させ、社会全体の利益を増やすこと。

他の定義と比較して：ベンサムと異なり、「権利」という概念の強調。「姥捨て山」はベンサムは受容、ジェームスは否定。

松下：マルクス

正義とは、万人平等なる自由と人権が確立・保障されること。革命的行使実践（ブルジョアから労働者の独立）。階級の廃絶、国の解体。某量革命。戦闘的正義。

郡：ロールズ

第一原理は、自由で平等な人々に対して公正となるように設計された社会契約のもとでは、平等な基礎的自由と平等な機会が人々に与えられる。第二原理は、社会的・経済的不平等は次の二つの条件を満たすもの：不平等がもっとも不遇な立場にある人の利益を最大にすること；公正な機会の均等という条件のもとで、全てのひとに開かれている職務や地位に付随するものでしかないこと。

千葉：個人の「正義感」

正義は、社会の価値観との関連において定義されるものである。高校の先生の恩情で卒業した男性が、その事実不満をいだき、その不満を示すために、小学生を殺害した事件。その犯人は、自分の正義は「勉強のできない自分を高校から卒業させるべきではない」ことであると主張する。